



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アルバイトと新規学卒就職の関連に関する実証的研究 : インターンシップとの対比に着目して
Author(s)	亀野, 淳
Description	人材育成学会第16回大会. 2018年12月9日. 東海大学高輪キャンパス, 東京都. 本研究は、JSPS科研費JP17K04671の助成を受けた成果の一部である。
Issue Date	2018-12-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/74583
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/4.0/
Type	conference presentation
File Information	HASCUP_JAHRD16.pdf



アルバイトと新規学卒就職の関連に関する実証的研究 ーインターンシップとの対比に着目してー

2018.12.09

人材育成学会@東海大学

亀野 淳

jkameno@high.hokudai.ac.jp

0.本報告の概要

1. 本研究の趣旨・目的
2. 本報告で明らかにしたいこと
3. 研究手法
4. 分析結果
5. まとめ

1. 本研究の趣旨・目的

- 若年者の就職・雇用問題

学生の志向が大企業に集中し、企業も学生の能力を十分に把握できないなど双方の情報不足・ミスマッチが存在

- 双方の情報不足・ミスマッチを軽減する手段

あらゆる媒体を用いて情報発信

能力をテストなどで定量的に把握する

- PROG: コンピテンシー、リテラシーなどをテストにより把握

亀野(2017a): PROGの結果と就職の関係などを分析

- GROW: AIを活用しコンピテンシーを定量的に把握

亀野・福原(2017): 就職・採用活動への活用の可能性について報告

インターンシップやアルバイトによる把握

- 亀野(2017b): 企業、大学へのアンケート調査をもとに、インターンシップを活用した就職・採用の現状や課題について分析

- 亀野(2008): 学生へのアンケート調査結果をもとにインターンシップと就職の関係について報告

先行研究

- 国内外の事例

Acemoglu and Pischke(1999):

職場でインターンシップなどの訓練生を受け入れるメリットとして訓練生の情報上の優位性を利用

亀野(2006、2013):フィンランドの事例

亀野(2015):中国の事例

吉本(2005):英国の事例

沢田・椿(2007):日本の観光産業の事例

- アルバイトについての先行研究

学業への支障など否定的な側面を強調:木戸口(2013)、渡辺(2015)など
肯定的な影響

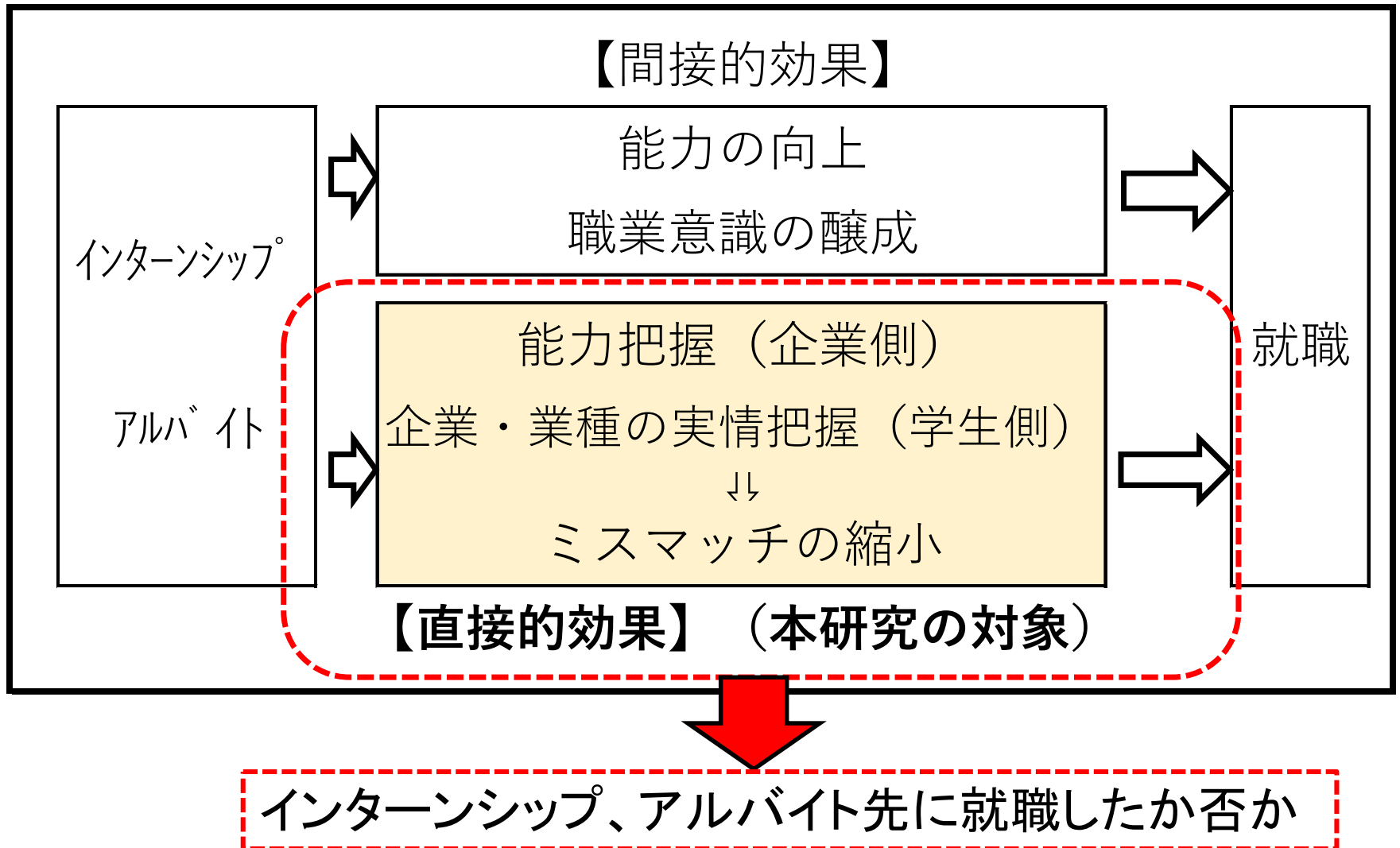
職業意識の醸成:杉山(2007、2009)、関口(2010)など

汎用的能力の向上:見館(2007)、石山(2017)など

アルバイトと就職の関連:平尾・梅崎・田澤(2018)など

本研究の枠組み

図表 1 本研究の対象



2. 本報告で明らかにしたいこと

- ①アルバイト先に就職が内定している学生（「アルバイト先就職学生」）の量的把握
- ②アルバイト先就職学生の属性（性別、学部、地域）とアルバイト先の属性（業種、規模）
- ③アルバイト先に対する就職意識
（アルバイト先就職学生とそうでない学生の比較）
- ④アルバイト先就職学生の就職先満足度
（アルバイト先就職学生とそうでない学生の比較）

3. 研究方法

- 発表者が実施した「インターンシップを活用した新たな就職・採用システムの構築に向けた実証的研究」におけるアンケート調査
- 就職が内定した大学4年生を対象者として、2018年1月に株式会社クロス・マーケティングを通じてインターネット上の質問紙により955名の回答
(本報告ではアルバイトに関する部分について分析)
- 回答者の内訳(図表2-1～2-3)
 - ✓ 「学校基本調査」の就職者(正規の職員等)の割合と比較すると、本回答の方が女性、人文科学、南関東の回答割合がやや高い。
 - ✓ 性別、地域ブロック(10分類)、学部(11分類)の割合をベースにウェイトバックした回答をもとに分析

4. 分析結果

①アルバイト経験の有無

図表3-1 アルバイト経験の有無（性別、学部別、大学所在地別）

		経験あり		経験なし		計
		人数	割合	人数	割合	
合計		852	89.2%	103	10.8%	955
性別	男性	415	85.7%	69	14.3%	484
	女性	437	92.8%	34	7.2%	471
学部	人文科学	134	91.2%	13	8.8%	147
	社会科学	330	91.2%	32	8.8%	362
	理学	16	80.0%	4	20.0%	20
	工学	98	84.5%	18	15.5%	116
	農学	25	92.6%	2	7.4%	27
	保健	79	84.9%	14	15.1%	93
	家政	28	82.4%	6	17.6%	34
	教育	69	95.8%	3	4.2%	72
	芸術	17	89.5%	2	10.5%	19
	その他	55	87.3%	8	12.7%	63
大学所在地	北海道	32	94.1%	2	5.9%	34
	東北	50	96.2%	2	3.8%	52
	南関東	291	84.1%	55	15.9%	346
	北関東・甲信	53	98.1%	1	1.9%	54
	北陸	33	76.7%	10	23.3%	43
	東海	72	86.7%	11	13.3%	83
	近畿	170	91.9%	15	8.1%	185
	中国	52	96.3%	2	3.7%	54
	四国	20	90.9%	2	9.1%	22
	九州	81	96.4%	3	3.6%	84

①②アルバイト先＝就職内定先の学生割合

図表3-2 就職予定先がアルバイト先の一つである学生の属性

		人数	アルバイト経験者に占める割合	全学生に占める割合
合 計		42	4.9% (28.2%)	4.4% (14.3%)
性別	男性	25	6.0% (28.7%)	5.2% (14.0%)
	女性	17	3.9% (27.8%)	3.6% (14.6%)
学部	人文科学	8	5.9% (25.3%)	5.4% (13.5%)
	社会科学	9	2.7% (24.9%)	2.5% (15.5%)
	理・工・農学	4	2.9% (26.0%)	2.5% (11.6%)
	その他	21	8.5% (38.5%)	7.5% (14.9%)
大学所在地	南関東	18	6.2% (29.2%)	5.2% (16.4%)
	東海・近畿	12	5.0% (20.3%)	4.5% (9.7%)
	地方圏	13	4.1% (33.1%)	3.8% (15.8%)
就職予定先業種	農業、林業、漁業など	3	15.0% (33.3%)	12.0% (16.0%)
	建設業、製造業	2	1.4% (24.4%)	1.3% (13.9%)
	卸売業、小売業	4	9.1% (45.8%)	8.2% (22.4%)
	宿泊業、飲食サービス業	2	9.5% (7.7%)	9.5% (4.8%)
	生活関連サービス業、娯楽業	4	17.4% (27.3%)	16.0% (12.0%)
	医療、福祉	9	7.0% (49.1%)	6.0% (18.1%)
	上記以外、わからない	18	3.8% (24.2%)	3.4% (12.9%)
就職予定先従業員規模	299人以下	14	5.3% (20.4%)	4.7% (9.8%)
	300～999人	6	3.9% (25.5%)	3.7% (15.4%)
	1,000人以上	20	6.5% (37.6%)	5.7% (21.1%)
	わからない	2	1.6% (19.1%)	1.4% (6.2%)

() 内はインターンシップ

③アルバイト先に対する就職意識等

図表3-3 アルバイト先に就職したいと思ったことがあるか

	アルバイト先就職学生でない	アルバイト先就職学生	全体
ある	10.9%	81.4%	14.4%
ない	81.5%	16.3%	78.2%
わからない	7.7%	2.3%	7.4%
全体	100.0%	100.0%	100.0%

図表3-4 アルバイト先に就職したいと思った理由

	度数	%
職場の雰囲気がよかった	47	37.8
自分が成長できそうに思った	20	16.1
仕事内容が自分に合っていると思った	40	32.6
尊敬できる社員がいた	3	2.6
給料がよいと感じた	9	7.4
労働時間（残業も含む）が短いと感じた	1	0.9
もともと就職先として志望していた	2	1.7
その他	1	0.8
合計	124	100

図表3-5 アルバイト先企業から就職を誘われたことがあるか

	アルバイト先就職学生でない	アルバイト先就職学生	全体
ある	23.0%	76.7%	25.7%
ない	77.0%	23.3%	74.3%
計	100.0%	100.0%	100.0%

③アルバイト先と大学の専攻や就職希望先に関連

図表3-7 アルバイト先の仕事内容と大学での専攻や勉強内容との関連

	アルバイト先就職学生でない	アルバイト先就職学生である	全体	
全くなかった	59.7%	26.2%	58.0%	
あまりなかった	21.8%	28.6%	22.1%	
ややあった	13.7%	28.6%	14.5%	
かなりあった	4.8%	16.7%	5.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	
平均値	1.64	2.36	1.67	**

(注) 平均値 = (4×(かなりあった)+3×(ややあった)+2×(あまりなかった)+1×(まったくなかった)) / (回答数) として算出。図表3-8も同様。

** : $p < 0.05$ 。アルバイト先就職学生である・ないの平均の差の検定

図表3-8 アルバイト先と就職希望先との関連

	アルバイト先就職学生でない	アルバイト先就職学生である	全体	
全くなかった	57.3%	25.6%	55.7%	
あまりなかった	20.4%	9.3%	19.8%	
ややあった	17.3%	32.6%	18.1%	
かなりあった	5.1%	32.6%	6.4%	
合計	100.0%	100.0%	100.0%	
平均値	1.70	2.72	1.75	**

③アルバイトをした理由

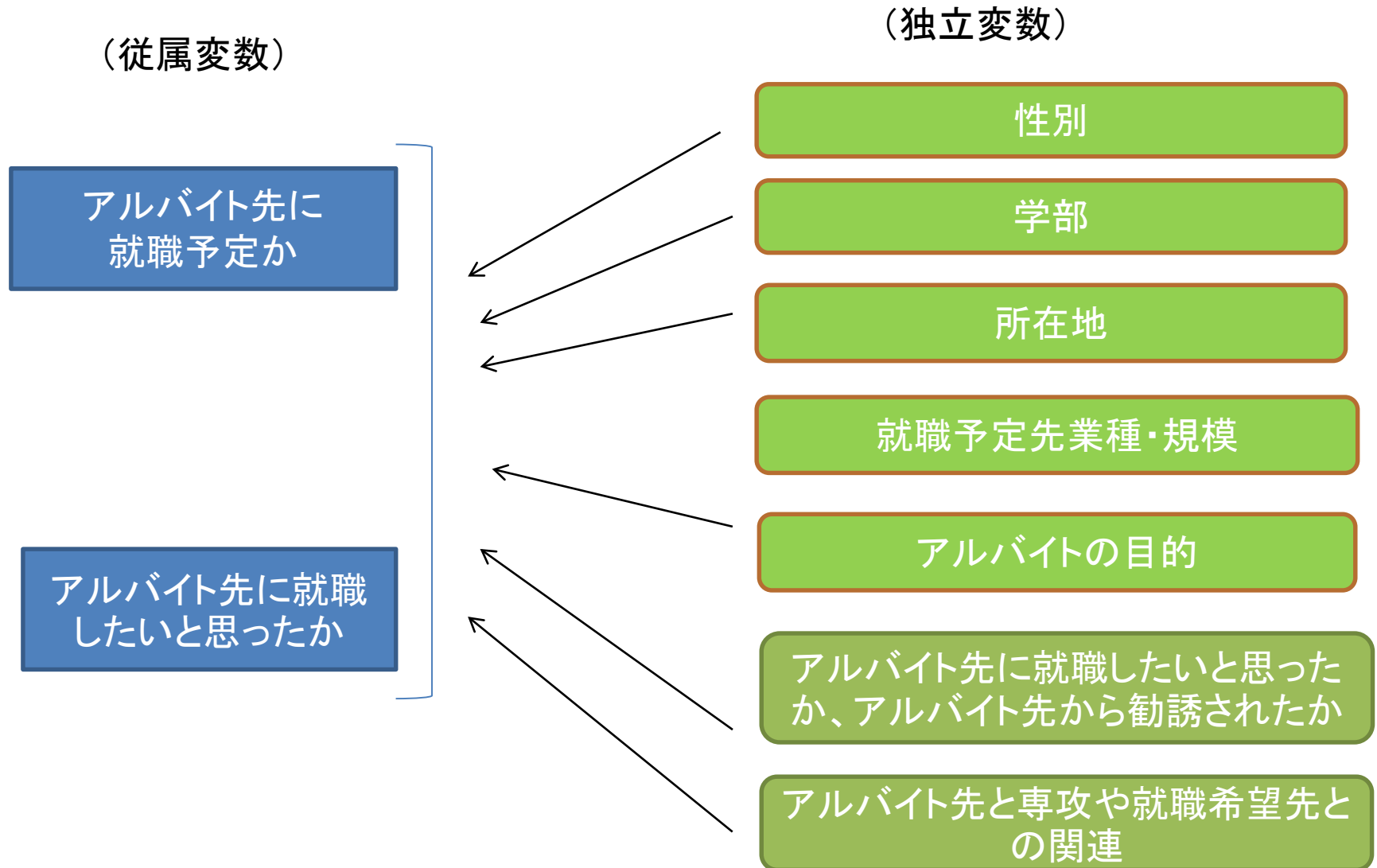
図表3-9 アルバイトをした理由

	アルバイト先就職学生でない		アルバイト先就職学生である		
	回答割合（第1位）	点数	回答割合（第1位）	点数	
お金が得られること	78.3%	4.12	48.8%	2.68	**
仕事の経験が身につくこと	6.2%	1.19	9.3%	0.99	
人生経験になること	7.3%	1.34	9.3%	1.37	
社会人としてのマナーが身につくこと	1.7%	0.49	2.3%	0.80	†
自分の成長につながる	2.7%	0.50	16.3%	1.22	*
将来の就職につながる	1.1%	0.18	4.7%	0.88	**
時間を有効活用できる	0.6%	0.51	4.7%	0.57	
友達づくりにつながる出会いがある	0.0%	0.18	0.0%	0.06	**
将来につながる人脈ができる	0.2%	0.07	2.3%	0.25	
給与以外のメリット（食事の提供や社員割引など）	0.1%	0.14	2.3%	0.15	
社会に役立つため	0.4%	0.08	0.0%	0.02	
その他	1.2%		0.0%		

（点数）＝（5点×（第1位）＋3点×（第2位）＋1点×（第3位））／（回答数）として算出

†：p<0.1、*：p<0.05、**：p<0.01。アルバイト先就職学生である・ないの平均の差の検定

③多変量解析(ロジスティック回帰分析)



図表3-10 ロジスティック回帰分析結果

独立変数		従属変数	アルバイト先企業に就職予定 かどうか	アルバイト先に就職したいと 思ったか
性別ダミー（基準：男）			0.914 † 1.102 **	0.513 * 0.601 **
学部ダミー （基準：人文科学）	社会科学		-0.349 -1.290 *	-0.674 * -0.732 *
	理・工・農		0.901 -0.848	-1.562 ** -1.668 **
	その他		1.271 † 0.822 †	-0.487 -0.114
所在地ダミー （基準：地方圏）	南関東1		0.728 0.549	-0.045 -0.046
	東海・近畿		0.403 0.429	-0.039 -0.043
就職予定先業種ダ ミー （基準：建設業、製 造業）	農業、林業、漁業など		-0.326 1.992 †	2.514 ** 2.534 **
	卸売業、小売業、宿泊業、飲食サービ ス業、生活関連サービス業、娯楽業		1.938 * 1.938 *	0.030 0.598
	医療、福祉		0.178 0.932	0.809 † 0.667
	上記以外、わからない		0.772 0.689	0.328 0.312
就職予定先従業員規 模ダミー（基準： 299人以下）	300～999人		-0.487 -0.169	0.617 † 0.490 †
	1,000人～		0.648 0.305	-0.180 -0.074
	わからない		-1.446 -1.566 †	-0.539 -0.740
アルバイトの目的 （第1位） （基準：「お金」）	仕事経験		1.212 0.979 †	0.004 0.297
	人生経験		-0.220 0.165	0.715 † 0.914 **
	マナー		-0.276 0.271	0.688 1.044 †
	自分成長		1.731 * 2.462 **	1.416 ** 1.761 **
	将来就職		1.385 1.688 †	0.986 1.539 *
	時間活用		3.312 * 2.830 **	0.056 0.719
	人脈		4.058 4.164 *	1.536 1.649
	給与以外		3.901 4.273 *	1.001 1.843
	その他		-0.734 0.361	0.294 0.574
アルバイト先に就職したいと思ったことがある			3.120 **	
アルバイト先から就職を勧誘されたことがある			1.473 **	1.671 **
アルバイト先と大学での専攻や勉強内容との関連（4段階）			0.148	0.151
アルバイト先と就職希望先との関連（4段階）			0.241	0.701 **
定数			-8.468 ** -5.063 **	-4.384 ** -2.294 **
n			856 856	856 856
Cox と Snell R2 乗			0.178 0.083	0.203 0.092
Nagelkerke R2 乗			0.544 0.253	0.361 0.164

④アルバイト先就職学生の就職先満足度

図表3-11 就職予定先企業の満足度、就活の自己評価

		アルバイト先就職学生ではない	アルバイト先就職学生である
就職予定先の満足度	大いに不満	8.9%	9.5%
	どちらかといえば不満	8.3%	23.8%
	どちらともいえない	19.3%	11.9%
	どちらかといえば満足	43.5%	40.5%
	大いに満足	20.0%	14.3%
	合計	100.0%	100.0%
	平均値	3.57	3.27 †
就活の自己評価	点数	67.6	60.2 †

(注) 平均値 = $(5 \times (\text{大いに満足}) + 4 \times (\text{どちらかといえば満足}) + 3 \times (\text{どちらともいえない}) + 2 \times (\text{どちらかといえば不満}) + 1 \times (\text{大いに不満})) / (\text{回答数})$ として算出。

† : $p < 0.1$ 。アルバイト先就職学生である・ないの平均の差の検定

5. まとめと今後の課題

5.1 まとめ

- 多くの大学生がアルバイトを経験しているが、アルバイト先に就職を予定している学生はそのうち4.9%となっており、インターンシップ先に就職する学生より少ない。したがって、現時点では、アルバイトが双方の情報不足・ミスマッチを軽減する手段とはいえない。
- アルバイト先に就職を予定している学生は、男性や「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」への就職者が多い。また、アルバイトを行った理由では、金銭目的が最も多いが、アルバイト先に就職を予定している学生は自分の成長や時間活用を重視する傾向もある。したがって、業種によっては、アルバイトが双方の情報不足・ミスマッチを軽減する手段とする発展性はある。
- 就職活動や就職先企業の満足度をみると、いずれもアルバイト先に就職を予定している学生はそうでない学生に比べて低い結果となっている。つまり、仕方なくアルバイト先に就職したとも考えられるが、一方で人手不足の中、企業側からのアプローチは強い。

今後の課題

- アルバイト先に就職を予定している学生は全体の4%程度であり、今回の回答数では定量的にその特徴を明らかにするには限界
- 今後は学生へのインタビュー調査や企業へのアンケート調査を実施したい

(参考文献)

- Acemoglu, D. and J. Pischke (1998), "Why Do Firms Train? Theory and Evidence", *Quarterly Journal of Economics*, vol. 113, pp. 79-119.
- 平尾智隆・梅崎修・田澤実(2018)「大学生のアルバイト経験と就職活動の結果」『キャリアデザイン研究』、第14巻、pp.91-99
- 石山恒貴(2017)「大学生のアルバイト経験が職業能力とジェネリックスキルに与える影響」『人材育成研究』、第13巻、第1号、pp.21-42
- 亀野淳(2006)「フィンランドの人材育成における高等教育機関の役割ーフィンランドにおけるインタビュー調査を事例としてー」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』、第98号、pp.103-112
- 亀野淳(2013)「フィンランドの高等教育機関における社会人教育ーフィンランド企業及び従業員へのインタビュー調査をもとにー」『生涯学習・社会教育研究ジャーナル』、第6号、pp.119-134
- 亀野淳(2015)「中国に高等職業教育における個別型産学連携教育の現状と課題」『生涯学習・社会教育研究ジャーナル』、第8号、pp.91-99
- 亀野淳(2017a)「大学生のジェネリックスキルと成績や就職との関連に関する実証的研究：北海道大学生に対する調査結果を事例として」『高等教育ジャーナル：高等教育と生涯学習』、第24号、pp.137-144 (リアセックキャリア総合研究所監修(2018)『PROG白書2018:企業が採用した学生の基礎力とPROG研究論文集』、学事出版、pp130-141 再録)
- 亀野淳(2017b)「企業の採用活動とインターンシップとの関連に関する定量的分析：企業と大学へのアンケート調査結果をもとに」『北海道大学大学院教育学研究科紀要』、第128号、pp.155-167
- 亀野淳・福原正大(2017)「大学生のコンピテンシーの新たな定量的把握方法と就職・採用活動への活用への試みー「GROW」の開発とその発展可能性についてー」『人材育成学会第15回年次大会論文集』、pp.99-102

- 亀野淳(2018)「インターンシップやアルバイトによる能力形成と就職活動との関連についての実証分析－大学生に対するアンケート調査結果から－」『日本インターンシップ学会第19回大会発表要旨集録』、pp.30-33
- 木戸口正宏(2013)「学生とともに「働くこと」を学ぶ(教養科目「現代社会と教育」における試み)その1-大学生のアルバイト経験に関する調査と大学教育・学生支援の課題」『釧路論集:北海道教育大学釧路分校研究報告』第45巻、pp.75-84
- 見館好隆(2007)「顧客接点アルバイト経験が基礎力向上に与える影響について--日本マクドナルドに注目して」『Works review』第2巻、pp.8-21
- 独立行政法人日本学生支援機構(2018)『平成28年度学生生活調査結果』
- 沢田隆・椿明美(2007)「札幌国際大学における長期インターンシップの取り組み」『インターンシップ研究年報』、第10号、pp.1-6
- 関口倫紀(2010)「大学生のアルバイト経験とキャリア形成」『日本労働研究雑誌』、第52巻第9号、pp.67-85
- 杉山成(2007)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか」『小樽商科大学人文研究』、第113巻、pp.87-98
- 杉山成(2009)「アルバイト経験はキャリア意識の形成にどのような影響を与えるのか(2):アルバイトの位置づけに関する検討」『小樽商科大学人文研究』、第117巻、pp.1-14
- 渡辺裕子(2015)「学生におけるアルバイトの実態と位置づけ:駿河台大学学生生活基本調査から」『駿河台大学論叢』、第50号、pp.169-187
- 吉本圭一編(2005)『高等教育と人材育成の日英比較－企業インタビューからみる採用・育成と大学教育の関係－』労働政策研究報告書(独立行政法人労働政策研究・研修機構)No.38

ご清聴ありがとうございました

※本研究は、JSPS科研費JP17K04671の助成を受けた成果の一部である。